

第82回

京都大学高等教育研究開発推進センター 公開研究会

# Deep Learning

## にもとづく大学教育のあり方

学生の Deep Learning（深い学習）を促す大学教育とはどのようなものなのか。Deep Learning 概念の提案者であり、学生の学習研究にもとづく授業の質的研究でも国際的に知られるフェレンス・マルトン教授を迎え、学生の学習に焦点をあてた大学教育とはどうあるべきかについて議論する。

日時：2011/12/1 [thu] 14:00～17:30  
[受付開始 13:30～]

会費無料 / 同時通訳あり  
事前申し込み不要

しらん  
場所：京都大学芝蘭会館別館  
[京都市左京区吉田牛の宮町 11-1]

<http://www.shirankai.or.jp/> Tel: 075-771-0958

フェレンス・マルトン氏講演：「学習の技法」

パネルディスカッション：溝上慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授）

「Active Learning を Deep Learning にするために」

松下佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター 教授）

「Deep Learning のための学習評価」

コメント：フェレンス・マルトン

## Ference Marton

ヨーテボリ大学（スウェーデン）名誉教授。元ヨーテボリ大学教育学部教授（教育心理学、授業研究）。深い学習（deep learning）と浅い学習（surface learning）、現象記述学（phenomenography）、学習の変異理論（variation theory）といった独自の概念・方法論によって、生徒・学生の学習の質的研究を行うとともに、それにもとづくティーチングについて実験的・実践的研究を進めてきた。スウェーデンだけでなく、オーストラリア、イギリス、香港などでも教育・研究活動を行い、その活躍は国際的に知られる。著書に、*The Experience of Learning* (1997)、*Learning and Awareness* (1998)、*University of Learning: Beyond Quality and Competence* (1998)、*Classroom Discourse and the Space of Learning* (2004) など。



### 問い合わせ先

京都大学学務部共通教育推進課管理掛

e-mail: [730center@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:730center@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

主催：京都大学高等教育研究開発推進センター 共催：京都大学グローバル COE 「心が活きる教育のための国際的拠点」

第82回

京都大学  
高等教育研究開発推進センター  
公開研究会

Deep Learning  
にもとづく  
大学教育のあり方

## プログラム

開会挨拶 14:00～14:10

田中每実（京都大学高等教育研究開発推進センター長）

## 第Ⅰ部 フェレンス・マルトン（ヨーテボリ大学）

講演 14:10～15:30

### 「学習の技法」

学習するというのもっとも重要な形態は、あるやり方で物事が見えるようになるということである。あるやり方でものを見るということは、それのもつ重要な特徴を見分け、同時にその特徴に焦点をあわせるということに他ならない。そして、ある特徴を見分けることができるためには、学習者は、重要な側面に関する変異を、その他の側面は変異させないなかで、経験する必要がある。学習の技法とは、こうしたことが生じるための必要条件を作り出すことができるということであり、それは、重要な側面の変異（差異）を引き起こし、それ以外の側面の変異は閉め出すことによって達成される。これが学習の変異理論（variation theory）の基本的な考え方であり、学生の深い学習を生み出す技法なのである。

## 第Ⅱ部 パネルディスカッション 15:45～17:20

〈パネリスト〉

- 溝上慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授）  
「Active Learning を Deep Learning にするために」
- 松下佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター 教授）  
「Deep Learning のための学習評価」

コメント：フェレンス・マルトン

ディスカッション

〈司会〉大塚雄作

閉会挨拶 17:20～17:30

大塚雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター 教授）